

〔目的〕明治初期における家政学関係の著作物は、翻訳物全盛の観がある。そうした翻訳家政書のなかでも最も広く、小学校の高等科や女学校の教科書として採用されたのは、米人ハスケル原著、永峯秀樹抄訳『経済小学 家政要旨』である。しかし、これまで、その原著者や原著書名については、同書のなかに原典名に関する原語記述がなされていないため、全く明らかにされていない。そこで、同書の原典に関する解明と原書と訳書との比較照合を行うことを研究の目的とした。

〔方法〕主な資料として、ハスケル原著、永峯秀樹抄訳『経済小学 家政要旨』上中下3冊、内藤傳右衛門、（明治9（1876）年）、および原書資料 Haskell, E. F. : The Housekeeper's Encyclopedia, D. Appleton & co., N. Y., (1872) を用いた。

〔結果〕『版權書目』および 'The National Union Catalog Pre-1956 Imprints' などにより『家政要旨』の原著書名について調査を行った結果、Haskell, E. F. : The Housekeeper's Encyclopedia が原典なのではないかと推測するに至った。この原典名をもとにアメリカに問い合わせたところ、イリノイ大学所蔵の同書のコピーが入手できた。その原著書の入手資料（1872年版）と訳書を比較した結果、『家政要旨』の原典はこのハスケル夫人の 'The Housekeeper's Encyclopedia' であると断定した。この入手資料は、本文の総ページ445ページ、全12編、62章からなっており、大半は、料理に関する内容を記したものである。原書と訳書の目次を比較した結果、『家政要旨』はこの原著書のうち、序文と本文12章の約60ページにあたる部分が抄訳されていることがわかった。